

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ラ・ポールS		
○保護者評価実施期間	令和8年3月1日		令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		令和8年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	トランポリン、バランスブロック、ターザンロープ、ボールなどの色々な遊具をいつも使えるようにして、子どもたちが「身体を動かすのって楽しい!」と感じながら、「できた!」という自信をたくさん積み重ねられるように環境を整えている。	子どもたちの感覚の特徴や、その時々活動内容(運動、工作など)に合わせて、部屋を分けるなど適切に区切ることで、一人ひとりが目の前のことに集中したり、安心して過ごしたりできる工夫をしています。	室内での運動遊びだけでなく、近くの公園や海といった大自然に出かけるなど、外遊びのつながりをさらにスムーズにし、季節を肌で感じながら五感を使って楽しめる機会を増やしていきます。
2	子どもたちの「やってみたい」という気持ちを一番大切にしています。自分で決めた活動を絵カードや言葉で伝えたり、手作りのスケジュール表を活用し、時間と活動の流れを意識して行動できるようにしています。	大人が一方的に指示を出すのではなく、子どもが自分で「これにする!」と選べるように、スタッフが楽しそうなきっかけを作ったり、お部屋の準備をしたりすることを意識しています。	活動の合間にある「待つ時間」や「やることなくて退屈だな」と感じる時間にも、子どもたちが自分で好きな過ごし方を選んで楽しく待てるような工夫や仕掛けをもっと増やしていきます。
3	ホームページ・SNS等で、その日の活動内容を発信することで、事業所での活動が伝わりやすいようにしている。	・その日あった活動内容をHPのブログにて発信している。 ・サービス提供の記録や保護者との連絡、自己評価についてもシステムを導入して円滑に行えるようにしている。	今後もよりよい連絡体制、情報発信ができるようになる為、児童、保護者、職員と連携を取りくんでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	気持ちを落ち着かせるスペースの確保。	ラ・ポールSの強みである「元気いっぱいの運動遊び」が盛り上がり過ぎて、まわりの音が気になりやすい子や、一度気持ちを落ち着かせたい子が、お友達の視線を気にせず完全に一息つける「静かなスペース」の準備が、お部屋の広さや見た目の工夫の面でまだ追いついていない。	部屋を分ける以外に仕切りを設置するなど、誰にも邪魔されずにホッとできる「気持ちの切り替えスペース」を整備する。
2	遊具の安全チェック。	遊具をたくさん使うため、傷みや消耗が早くなる傾向があります。また、高いところや見えにくい部分にほこりなどがたまることが考えられる。	遊具の毎日の安全点検・お手入れのルールをしっかりと決めてケガ防止に努める。
3	スタッフによって専門性が異なる。	スタッフ個人の経験や慣れに頼りがちになっており、事業所全体でいつでも・誰でも100%同じようにできているとはいえない。	スタッフ同士の話し合いや、勉強会で学んだ良いアイデアをその場限りにせず、全体で共有したり個々の強みが発揮できるようにする。